



失業対策事業を

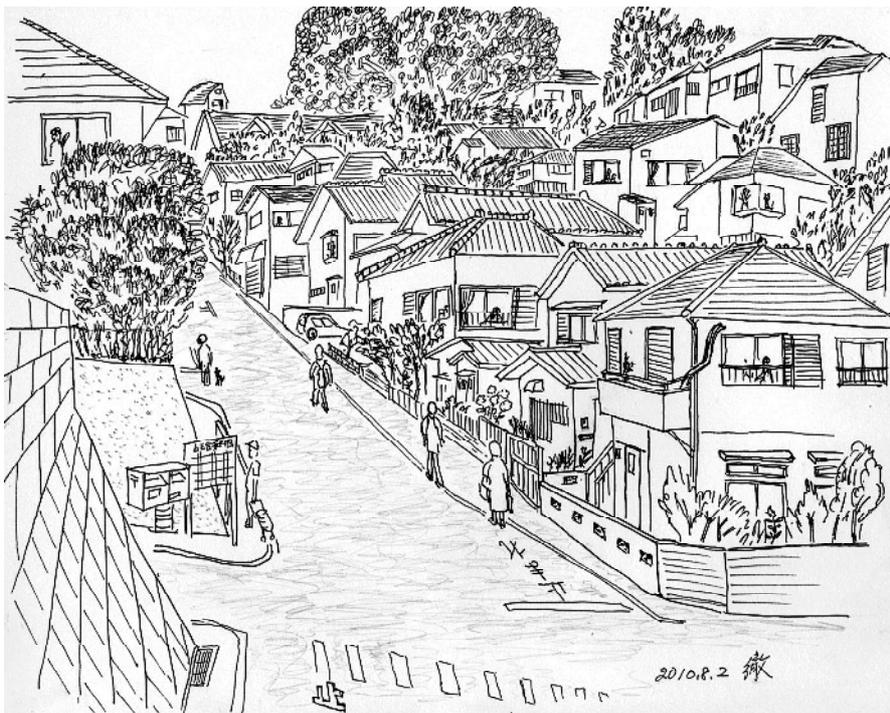
失職すると、ネットカフェ難民とか、ホームレスに、簡単に陥ってしまう世の中。仕事を探そうにも見つからない。働く能力も意欲もありながら、やむなく生活保護を受けると云う例が聞こえてくる。そうした人々に「生活保護費」を支給するなら、その費用プラスアルファで、公共の為の仕事をしてもらったらどうだろうか？草ぼうぼうの公園の整備、道路や河川の整備、空き地の草刈り、あるいは、公園の管理人として公園に常駐するようにすれば、子供達の安全も守れる。

今から50年以上前のことである。子供の

頃、住んでいた家の隣が区立公園だった。そこには毎日、失業対策事業に応じた人々が集まり、仕事を割り振られては散って行き、夕方仕事を終えると、又、そこに集まってきていた。当時は、第二次大戦が終わり、大陸などからの引き揚げ者など、失業者が沢山居たので、その対策として、1949年に緊急失業対策法が作られたと云う。

憲法に定める生きていく権利を保障する為の生活保護であるが、一歩進めて、生活を出来るように仕事を提供する、謂わば、昔の「失業対策事業」を再生させたらどうでしょうか？

皆さんはどう思われますか？



横浜・永田山王台の坂

横浜の大地は大きく二つの層に分けることが出来る。海拔五十メートル前後の台地の上と海拔数メートルの平地である。その台地と平地が入り組んでいるから至る所に坂がある。横浜は坂の町だ。

私の家は、この坂を上り詰めた台地の上にある。詳細な地図で見たら、海拔五二メートルであった。一方、この絵の坂の下は海拔十メートル位である。朝の出勤時は下り坂。サラリーマンが飛ぶように駆けて行く。が、一方、台地の上にある横浜総合高校の生徒達は、毎朝、この坂を登らないといけない。若い足腰を鍛えるには丁度良いかも知れない。台地の上に住む我々は、駅から帰るとき、この坂を登る。今年のように猛暑の夏の夕方、電車の冷房で汗が引いたと思つたら、又、一汗。でも、それが、健康に良いのかも知れない。